

⑤ 東京雑学研究会 編
『雑学大全』

(東京書籍)

本書にはタイトル通りに、様々な話題がこれでもかと言うほどたくさん集められています。

「浦島太郎」のカメはオスカメスカとか、カメレオンは死んだら何色になるか、などという問いにも、きちんとした説明が付けられています。

他にも、勘定の支払いを「お愛想」というのはなぜか、「あしたのジョー」の矢吹ジョーにはモデルがいる？犬が怖くて震えていた勝海舟、図書館で怒鳴った夏目漱石など、成る程と思ったり、面白くて笑えてきそうな多くの話題に、きっと出会えることでしょう。楽しく読める一冊です。

049-Zats (F.O.)

⑦ Heinz Rölleke 著、フローチャー美和子 訳
『封印されたグリム童話』

(三修社)

グリム兄弟が収集・編纂した『グリム童話集』は1812年に初版が出て以来、今なお高い人気を誇っています。その中には約250話のメルヘンが収録されていますが、それ以外にも採用には至らなかった作品は数多く存在し、グリム兄弟はそれらの原稿も大切に保管していたようです。

本書ではそんな未発表の作品48話が、解説とともに紹介されています。新しいメルヘンに出会う喜びを味わってみてはいかがでしょうか。

943-Rol (H.T.)



⑥ 東洋文化研究会 編
『中国の暮らしと文化を知るための40章』

(明石書店)

中国は日本人にとって身近な国で、毎年大変多くの旅行者が中国を訪れています。しかし日本文化とは異なったものも数多くあり、中国文化に触れて興味を持たれた方も多くおられることでしょう。

本書では、中国の食や伝統、日常生活など、中国に関する様々な事柄が紹介されています。日本人が理解し難い中国の風土や中国人の発想もよくわかります。日本との関係が深い中国文化に触れてみましょう。

302.22-Chug (N.I.)

⑧ マンヌー・バンダーリー 著、橋本泰元 監
訳、きぬのみちえ 訳

『ぼくの庭にマンゴーは実るか』

(星雲社)

IT産業のめざましい発展や中産階級の増加、それにとまなう高い市場価値など、近年諸外国から注目を集める大国インド。こうした高度成長の流れは家庭の中にも押し寄せ、伝統的な家族のあり方は崩れ去りつつあります。かつては父・夫・息子に従って生きるべきとされたインド人女性が、キャリア・ウーマンとなって子育てと仕事の両立に励む現代。本書はそんな母親の離婚と再婚によって、自分の居場所を見つけられず疎外感に苦しむ少年の姿を描いていきます。

929.83-Bha (N.T.)